

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2024年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2024_v1.21

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)神崎郡ごみ処理施設	階数	地上4F
建設地	兵庫県神崎郡市川町	構造	SRC造
用途地域	指定なし	平均居住人員	80人
地域区分	5地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	事務所,工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年12月 予定	評価の実施日	2025年10月14日
敷地面積	16,275 m ²	作成者	村上朝
建築面積	4,325 m ²	確認日	2025年10月21日
延床面積	8,534 m ²	確認者	灰塚拓児



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.2

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B+: ★★ C: ★

2-2 ホールライフカーボン (温暖化影響チャート)

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆☆ 100%超: ☆

標準計算

- 建設
- 修繕・更新・解体
- 運用
- オナサイト
- オフサイト

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

100% 86% 84% 84%

(kg-CO₂eq/年・m²)

このグラフはLR3.1「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたWLC排出量の目安で示したものです。④は参考として運用分をBEI+で表示しています。

2-3 建築環境SDGsチェックリスト評価結果

3(保健)	2.3
4(教育)	2.2
5(ジェンダー)	2.3
6(水・衛生)	2.3
7(エネルギー)	1.9
8(経済・雇用)	2.5
9(イノベーション)	1.9
11(都市)	2.3
12(生産・消費)	2.2
13(気候変動)	1.9
15(陸上資源)	1.6
17(実施手段)	1.9

*SDG1,2,10,14,16は他のゴールに集約されています

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.1

Q1 室内環境 Q1のスコア = 2.9

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.3

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 3.2

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.3

LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.2

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.3

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項		その他
総合	室内環境の快適性や省エネルギー、リサイクル性能等の環境配慮を行い、総合的な環境性能を満足できるよう計画している。	特になし
Q1 室内環境	使用する建材は全てF☆☆☆☆とし、化学汚染物質による空気室汚染対策に配慮している。また居室には適宜開口部を設け複層ガラスを採用することで、空気室環境の向上と断熱性能の向上に配慮している。	隣接する多目的広場や周辺植栽を一体として計画することで、周囲の景観へ配慮している。建物の一部を地域の啓発施設として計画し、地域活動に貢献している。
LR1 エネルギー	LED照明を採用することで、エネルギーの高効率化に配慮している。また、外壁等には断熱性能の高い材料を採用することで外皮性能の熱負荷抑制に配慮している。	雨水貯留槽により雨水流出抑制対策を行い地域インフラへの負荷を抑制している。十分な駐車施設を設け、場内の車両動線計画を行うことで、交通負荷の抑制に配慮している。
Q2 サービス性能	事務室をはじめ主要な居室はゆとりのある天井高さを確保し、リフレッシュスペースとして休憩室を計画するなど、快適性に配慮した。また耐震構造設計により重要度係数を1.25とすることで人命安全確保に加えて機能確保する耐震	
LR2 資源・マテリアル	節水型の器具を使用することで水資源に対して配慮している。また、再生砕石やOAフロアなどの再利用可能なユニット材を採用することで資源保護に配慮している。	
LR3 敷地外環境		

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ホールライフカーボン(WLC)」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の温室効果ガス排出量のこと。ここでは、建築物の寿命年数で除した年間温室効果ガス排出量で表示。

■評価対象のWLC排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される